

実践レポート／ 探究の窓

VOL.12

本格実施から丸4年が経った「総合的な探究の時間」。
現場で試行錯誤が続くなか、
実践のヒントとなる探究の事例をご紹介します。

● 年間スケジュール (普通科)

1年

グループ探究を経験し、 キャリアについて知る

前期は「経験」に重きを置き、SDGsをテーマにグループ探究に取り組む。後期は「知識」に重きを置き、さまざまな企業・団体の社員・職員の話を聞き、企業での仕事やキャリアのあり方について知る。

2年

ビジネス案を考案し、 起業家精神を身につける

アントレプレナーシップをテーマに実践力を身につける。「9つのP」に基づき実際にビジネス案を考案。プロダクトの考案までは個人で行い、その後はグループで活動し、最後はピッチで発表する。

3年

ビジネスの実装に不可欠な 金融の知識を身につける

株式等学習シミュレーションを使った株取引などを通して、ビジネスの実装に不可欠な金融についての知識を習得。ビジネスコンテストなどにも挑戦する。

School Data

1897年創立／普通科・運輸科／生徒数1283人(男子998人・女子285人)／進路状況(2026年3月卒業)大学241人、短大2人、専門学校32人、就職115人

岩倉高校(東京・私立)

探究の原点は行動。 授業と課外活動の両輪で 生徒と社会をつなぐ

60以上の外部組織と連携し、
学校と社会をつなぐ

岩倉高校では、探究学習をキャリア教育の一環として位置づけ、「千羽鶴活動」と名づけた課外活動との両輪で生徒の学びを深めてきた。最大の特徴は、企業・団体や行政、教育機関など60以上の外部組

織との連携だ。その取組が評価され、文部科学省・経済産業省共同による令和7年度「キャリア教育推進連携表彰」優秀賞を受賞した。社会と連携したキャリア教育に着手し、学校全体の取組へと広げてきた総合探究科主任の酒井徹先生は、初期の様子を次のように振り返る。

「私自身、民間企業で4年間働いてから教員になったこともあり、学校と社会をつなげたいという強い思いをもっていました。そこで、自分で企画書を書き、学生時代の伝手をたどり、企業に飛び込みで依頼をして……。リコージャパン(株)の社員の方に総合的な学習の時間の授業に講師として来ていただき、SDGsをテーマに話をしてもらったのが最初です。その後、企業・団体とのつながりが徐々に増えていき、取組も最初は自分のクラスだけだったのが、学年、学校へと広がっていきました」

取組のあり方も、次第に生徒主体へと変わっていった。例えば、キリンビバレッジ(株)との連携では、生徒がSDGsの課題解決策を考える際の壁打ち相手を社員



総合探究科主任で生徒会・千羽鶴活動の顧問を務める酒井徹先生(写真中央)。ミラソン(株)の探究学習アドバイザーも務める。

に務めてもらい、生徒は「マイボトルに注入できる新しい自動販売機」のアイデアを同社の社員らに向けてプレゼン。アイデアに対するフィードバックをもとに、同社の協力を得て校内で「ラベル回収キャンペーン」を実施した。

そして、2022年度の総合的な探究の時間の始動に際して、「探究×キャリア教育」をテーマにカリキュラムを再編。現在は、1年次はSDGs教育とキャリア教育、2年次はアントレプレナーシップ教育、3年次は金融教育と、3年間を通して社会を探究し、実践力を高める指導を、企業と連携しながら行っている。

経験と知識のインプットの 往還で、経験の質を高める

1年次の前期は、SDGsをテーマに、グループ探究に取り組む。「ありきたりな解決策ではなく、実在する技術や研究データを活用して実装することまで考えた、根拠に基づくアイデアを提案することを課している」と酒井先生。続く後期は企業・団体(2025年度は7企業1団体)の社員・職員の話を聞き、企業や仕事、社会について知るキャリア教育に充てている。

「高校生は、消防士や看護師、教師といったいわゆる専門職については想像ができて、民間企業や団体で働く人がどのような仕事をしているのかについては、よくわかっていないと思うんです。生徒の視野が広がるようにできるだけ幅広い業種の企業に協力を依頼し、社員・職員の方々に、自社の取組や日々の業務、個人的なキャリア

「千羽鶴活動」の 2026年度プログラム

- 岩倉で農業!?
スクールファームプロジェクト!
- カンボジアとのオンライン交流会
- 学校横断型アントレ部
(ミラッソ(株)主催)
- 障がい者の方々ができる
お麴ラスクの新フレーバー開発
- マラウイ産コーヒーのデザイン&販売
- カンボジア産
ドライフルーツのデザイン&販売
- 教員を目指す人集まれ!
Let's learn education!
- LGBTQへの理解を深める
レインボープロジェクト

※ 千羽鶴活動の様子はInstagram
(@iwakura_snbz)でも発信中。



(左上) キリンビバレッジの社員による授業の様子。企業の取組や自身のキャリアなどを話してもらう。(左下) リコージャパンによるオンラインオフィス見学ツアーの様子。同社の社員は対面でも講義を行い、長期休みには有志の生徒が実際のオフィスにも訪問した。(右上) 千羽鶴活動の一環として、浅草橋・銀杏岡八幡神社の「いちよう朝市」に定期的に出展。企業とのコラボ商品などを販売している。(右下) 千羽鶴活動の周知のため、有志の生徒が校内で開催している「千羽鶴カフェ」。

の話などをしてもらっています」

1年次の学びを踏まえて、2年次はアントレプレナリシップをテーマに実践力を身につける。酒井先生自身も参加経験のある、タクトピア(株)が提供する起業家教育プログラム(岩倉)の考え方も取り入れながら、岩倉高校の生徒に合わせて再構成したカリキュラムを展開しており、9つのP*に基づき実際にビジネス案を考案する。プロダクト(サービスや商品の原型)の考案までは個人で行い、その後はランダムに組まれた3〜4人のグループで活動。最後はピッチ(短時間で行うプレゼンテーション)で発表する。

さらに3年次には、金融経済教育推進機構が提供する「株式等学習シミュレーション」を使った株取引などを通して、ビジネスの実装に不可欠な金融についての知識を習得する。

「行動して経験することですが、人は成長しない。行動して初めて、見えてくるものがある。PDCAではなく、まずはD(DO)から。そして、経験と知識のインプットを交互に繰り返すことで、経験の質は高められる。私は常々そう考えており、生徒にも伝えていきます。1年次前期のグループ学習を通して、まずは仲間と何かを作り上げる経験をする。そして後期には、仕事や将来のキャリアについて知識を習得する。これにより、2年次の経験的な学びがより充実したものになります。さらに、3年次にお金についての知識を身につけることで、次のステージにつなげてほしいと考えています。実際、2年生で取り組んだテーマをさらに深め、ビジネスコンテストに

挑戦したり、総合型選抜で大学受験に挑戦したりする生徒も増えていきます。そうした生徒の壁打ち相手には、外部の起業家などにも入ってもらっています」

外部と連携した課外活動に のべ500名以上が参加

一方、千羽鶴活動は、「部活動をやめた生徒たちにセカンドチャンスの場を与えたい」と考えた酒井先生が、クラス内の「係」として5年ほど前に始めたプロジェクト活動が原点。現在は全校生徒が誰でも参加でき、部活動や委員会活動と並ぶ課外活動となっているが、「誰でも気軽に参加できるようハードルは低く設定している」と言い、入部・退部などはない。「折り紙のようにいろいろな色や形に変化してほしいという願い、10000のバズるプロジェクトを立ち上げたいという想いを込めて、千羽鶴」と名づけた」と酒井先生。その願い通り、5年間でのべ55プロジェクト、500名以上の生徒が参加する活動へと進化している。

外部と連携した取組であることが、千羽鶴活動の唯一の条件だ。台東区をはじめとした行政、NPO法人、小規模事業者など、地域に根ざした提携先が中心となっている。今年度は8つのプロジェクト(資料参照)が動いているが、プロジェクトごとに生徒・教員の関わり方にあえてグラデーションをつけていると言った。

「教員が企画から運営まで大部分を担う受動型から、企画までは教員が行い運営は生徒に委ねる誘導型、素材は教員が提供し企画・運営は生徒に任せる提案型、生

徒の発案によりすべて生徒主体で行う開拓型まで、生徒が最初の一步を踏み出しやすいよう、また、やりたいことがある生徒はとことん追求できるように、多様な形態をとっています。週1時間の探究の授業でできることは限られており、千羽鶴活動にはそれを補完する意味合いもあります。経験を通して何を求めるかは一人ひとり異なるものですが、生徒を見てみると、それぞれに必要な生きる力を得て成長していると感じます」

新コースの開設で、 探究型の学びを推進

「探究とは、本来、生徒が熱く語れるもの。全員の授業のなかでやる必要はなく、部活や委員会活動も探究になり得る」と酒井先生。一方、より探究的な学びにフォーカスしたいという思いをもち続け、実践・発信を続けてきた。そして、岩倉高校は、来年度、創立130周年を迎えるのを機に、普通科を再編。プロジェクト型探究型の学びを軸にした「キャリアデザインコース」を開設する。

「現状では、外部と連携したキャリア教育やプロジェクト学習の本質的な価値を生徒に伝えきれていない、生徒のポテンシャルを十分に引き出せていない、といった課題も感じています。新コース開設は大きなチャンス。企業・団体や行政との関係性をさらに深め、企業からミッションをもらってプロジェクトを進めるなどより実践的な学びを実現し、課題の解決にも努めたいと考えています」

まとめ

岩倉高校の探究のモットー

経験を大切に。行動して
初めて、課題は見える

#外部連携 #キャリア教育 #まずは行動 #課外活動

Do(行動)

一歩踏み出すことで、 自分の興味・関心に気づく

行動することで、興味・関心の方向性が見えてくる。そして、興味・関心事から、探究のテーマや課題が見えてくる。そうした考えから、「まずは行動から」をモットーに、一歩踏み出してみようことを重視している。

好き・嫌いから身近な課題を探る

プレスト(アイデア出し)の練習をしたうえで、「Love & Hate」ワークに取り組む。好きなこと・嫌いなことを書き出し、「好きなことを広めるには?」「嫌いなことを解消するには?」という観点で課題を探る。

まずは自分で何が必要かを考え、 エビデンスとなる情報を集める

世の中にあるエビデンスを集めて根拠を確立する。その際、最初から生成AIを使うのではなく、まずは自分で考えたり情報を集めたりするよう指導。3つめの案や情報以降は、生成AIの使用も認めている。

経験

課題の
設定

情報の
収集

整理・
分析

まとめ・
表現

原稿読みは禁止。自分の 言葉で語れるまで仕上げる

2年次のアントレプレナーシップでは、ピッチでプレゼンを行う。制限時間は1グループ3分間、資料は生成AIを使わず作成し、原稿を読むのは禁止。自分の言葉で語れるようにしたうえで発表するよう指導している。

集めたエビデンスを 課題解決案につなげる

実在する技術や研究データを活用して実装することまで考えた、根拠に基づくアイデアを提案するよう要求。生徒は、集めたエビデンスをいかに課題解決に活用するか、仲間と議論を重ねて深めていく。

探究設計のPOINT

POINT ① 外部組織と広く連携し、
学校・生徒と社会をつなぐ

POINT ② 多様な仕事やキャリアを知り、
自らの将来像を描かせる

POINT ③ エビデンスに基づく
課題解決策を考えさせる

「探究の授業」と「課外活動」の位置づけ

	知る	調査する	課題を 発見する	解決策を 組み立てる	プレゼンする	実行する
自分で						
チームで						
クラスで						
学年で						
学校で						
企業・地域で						

週1時間の総合的な探究の授業で目指すゴールと課外活動で目指すゴールを可視化し、教員間で共有。「千羽鶴活動」はより深く探究したい生徒の活動の場となっている。